

(1) 竣工せる  
皇室博物館  
全景。

## 東京皇室博物館復興建築工事

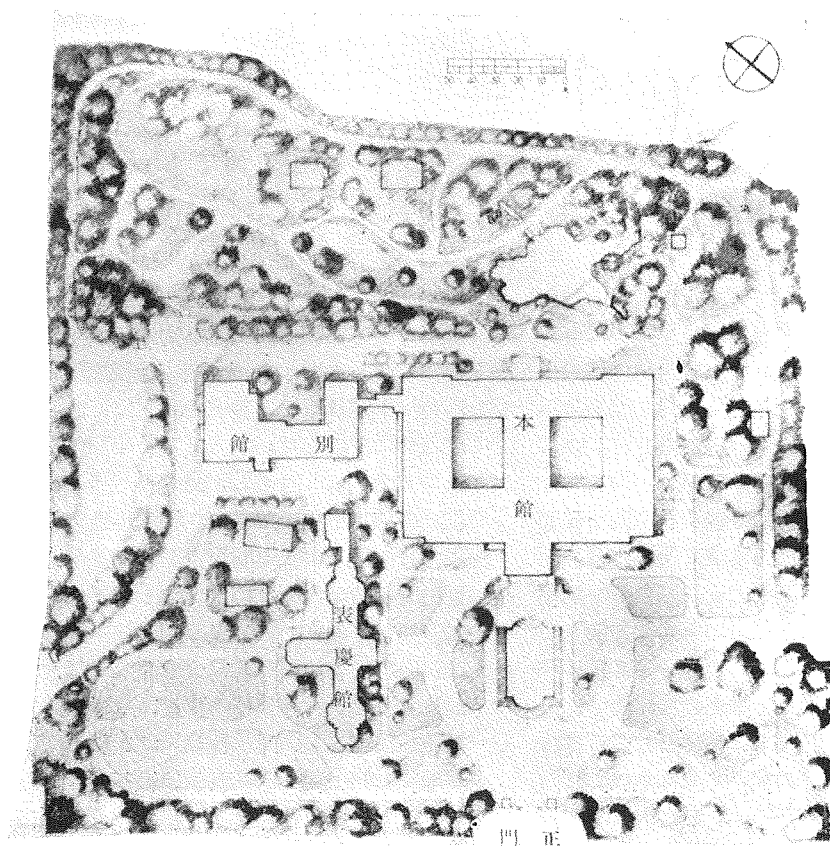
東京皇室博物館の本館は大正十二年九月大震災の厄に罹り暫く復興の運びを見るに至らなかつたが、昭和3年、今上天皇御即位の大禮を挙げさせ給ふに際し、此大典を記念せん爲に皇室博物館復興翼賛會が組織され、總工費700萬圓の内350萬圓を政府の補助に仰ぎ一般事務費其他を含めて總額500萬圓を民間有志の寄附に俟つて復興事業に着手した。而して昭和5年12月、平面計畫に關する一試案を得、之を参考とした独自の平面計畫及立面計畫案を懸賞を以て募集し、翌6年4月273の応募案を得て締切り、審査の結果渡邊仁氏の案を一等當選とし、之を参考としたる實施設計及工事施工を總工費700萬圓を以て宮内省に委嘱した。宮内省では内匠寮内に臨時帝

室博物館造營課を新設、北村耕造氏を課長として皇室博物館造營工事に對する一切の事務に當らせ、工事は大體5個年繼續事業として昭和11年12月竣工の豫定のもとに、直ちに實施設計に着手した。かくて翌7年12月22日を以て根伐工事に着手し、越へて8年3月實施設計の確定を見、工事は本格的に進捗して10年4月には上棟式を舉行、昭和12年11月6日目出度竣工を告ぐるに至つたものである。竣工の期日が最初の豫定より約1個年遅れたのは、途中新規別館計畫により計畫が擴大されたる爲と建築材料價格の騰貴に伴ふ設計一部見積替によるもので、此結果は工期を1個年間延長し總工費を713萬圓に増額した。

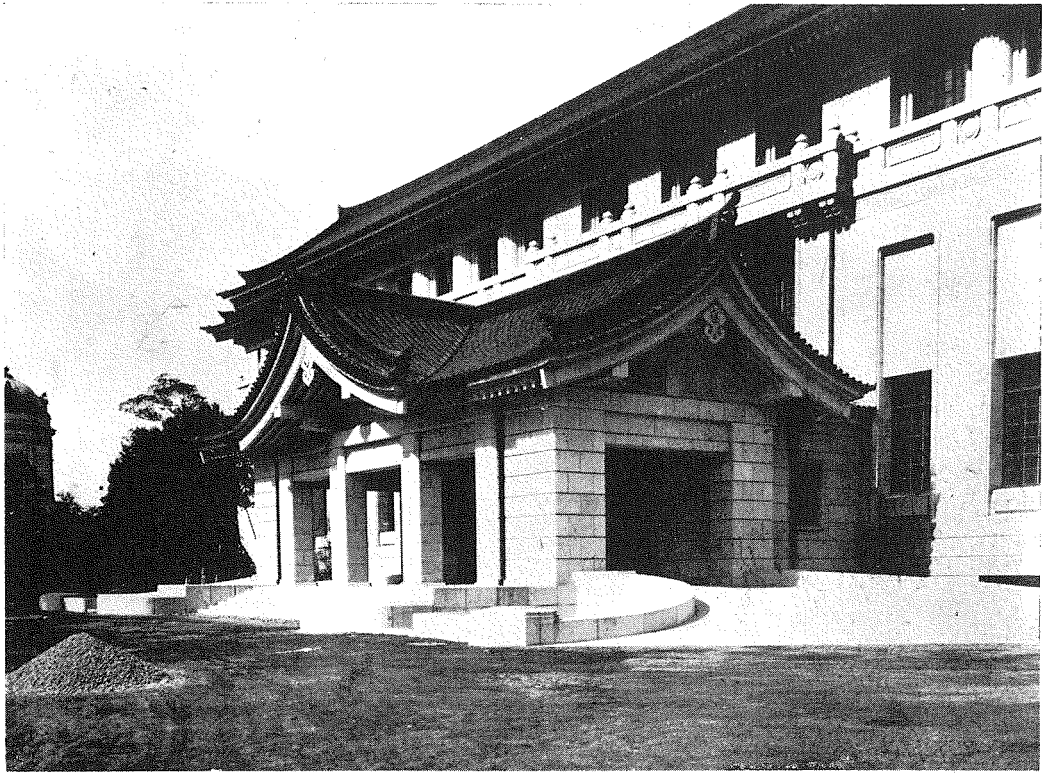
今回の皇室博物館復興計畫は一大東洋古美

術博物館の建設を目標としてなされたものであるが、東洋古美術の陳列及保存には特殊の工夫と考案が必要で、其設計及施工には極めて多くの苦心と困難が伴つた。第一東洋古美術博物館として採つて以て範とするに足る既設のものが皆無で、また世界的に見ても理想的な美術博物館が殆んど見當らぬ有様で、全然新たなる調査研究が必要だつたのである。そこで昭和4年9月、翼賛會内に東京帝室博物館建築設計調査委員會が設置され、細川護之侯を委員長に、建築関係では伊東忠太、丹羽重光、武田五一、塚本靖、内田祥三、佐藤功一、北村耕造、岸田日出刀の諸氏が委員となつて各般の調査と研究が進められた。建築物の性質として構造があくまで強固であり、

しかも陳列及保存上必要な特別な設備、觀覽上の採光施設等々問題は複雑多岐に互つてゐるのである。外觀も亦永久に記念するに相應しいものでなければならぬ。しかも之等の問題は各委員の調査と、造營課の設計と、施工者の誠意とによつて完全に克服され、茲に世界に誇るべき大博物館が出来上つたのである。工事は大林組の請負であつたが、各施工者は何れも現代最善の技術と材料を提供し、眞にこれ以上の建築は出来ないと言ふ意氣込で工事を進め、大阪陶業の如き1個100貫もあるテラコッタの製作には並々ならぬ苦心と努力を拂ひ、また石材の如きは北村課長自ら全国各地の産地を視察し、明治石材商會の福島縣産櫻花崗岩、岡山縣産萬成石、廣島産議



(2) 帝室博物館配置圖。



(3) 正面玄関。

院石、朝鮮萬成石等比較研究の結果、櫻花崗石が最も風化及褪色に耐へるものとして決定した程で、其施工にも非常な苦心が拂はれたのである。この他屋根瓦の色彩的効果並に其吸水率等に関する研究、温湿度調節、防火防盜の施設等、一として苦心の結晶ならざるはなき有様である。其の工事の大要は次に掲ぐる通りであるが、概要を記す前に、之等の資料を提供されまた快く談話して下されし宮内省の菊池技師、寶贊會の北條理事、大林組佐野主任に厚く御禮を申上げて置く。

## 工事の大要

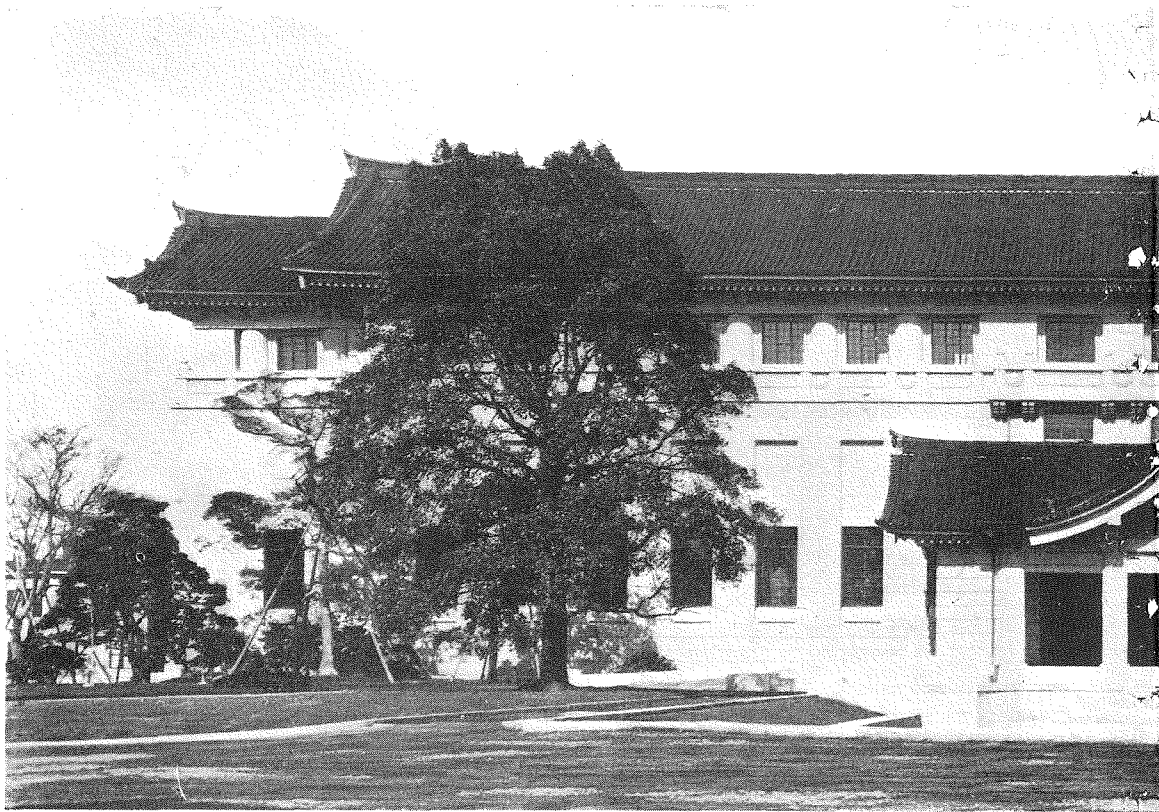
所在地 東京市下谷區上野公園御料地内  
敷地 105,831.67平方米(32,012.00坪)

## 建 物

### 【本 館】

間口(南面) 109.20米(60.06間)  
奥行(東面) 73.00米(40.15間)  
階 數 地下二階、地上二階(一部中二階を設く)  
高 さ 正面中央大屋根軒高  
21.70米(11.935間)  
同 大棟高  
29.266米(16.096間)  
車寄屋根軒高  
7.25米(3.96間)  
同 棟高  
11.79米(6.484間)

(1) 總面積 21,562.47平方米



(6,522.644坪)

内 譯

第2地階	931.85平方米(281.884坪)
第1地階	5,828.73平方米(1,763.190坪)
1階	6,601.80平方米(1,997.044坪)
中2階	2,096.16平方米(634.988坪)
2階	5,762.89平方米(1,734.274坪)
屋階	341.04平方米(103.164坪)
其他	
2階ギヤ ラリ其他	1,054.94平方米(319.119坪)
馬車廻し	332.50平方米(100.581坪)
空壕及附 屬階段共	1,141.09平方米(345.179坪)
テレス	140.80平方米(42.592坪)

バルコニー 28.20平方米( 8.53 坪)

(2) 各階用途

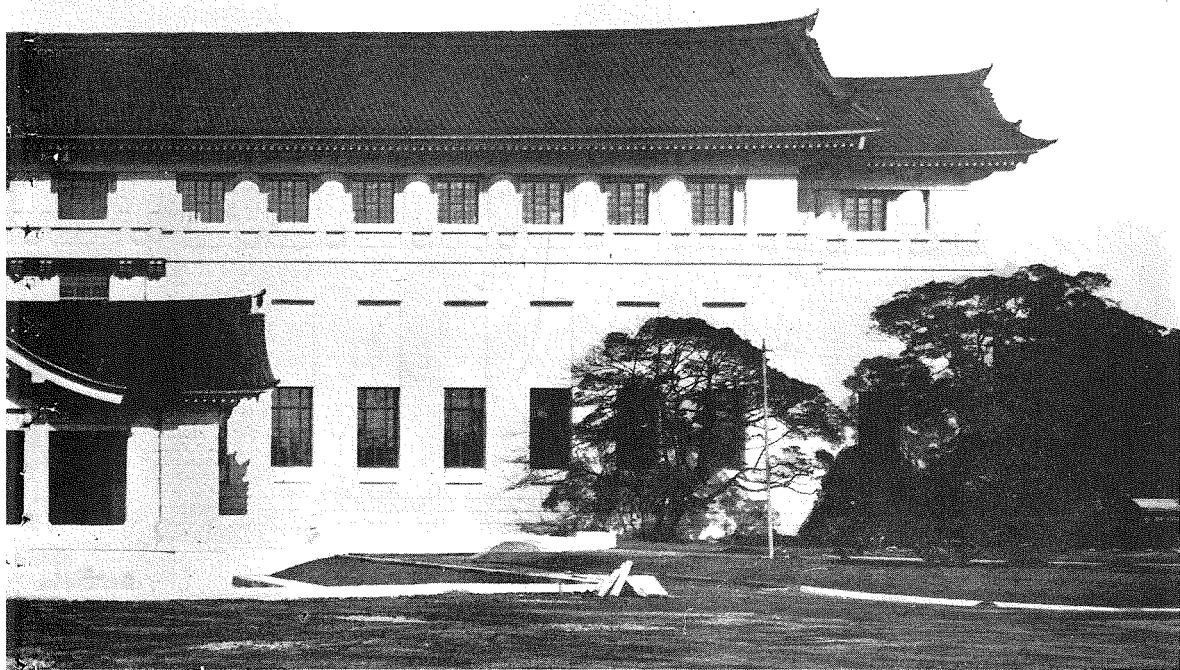
第2地階	機械室
第1地階	團體休憩室、作業室、電氣室 下足預所等
1階	玄関、廣間、陳列室、休憩室 貯藏室、事務室等
中2階	貯藏室、事務室等
2階	貴賓室、陳列室、貯藏室、事 務室等

(3) 様 式

日本趣味を基調とする東洋式

(4) 構 造

基 礎 地盤面下深7.70米。總堀防水



(4) 正面全景。

工事上鉄筋コンクリート版地  
形を施す。

主 體 鉄骨鉄筋コンクリート

(5) 外 装

腰、正面高欄下壁車廻り花崗石。側面及  
背面高欄下壁並背面一部腰タイル張。高  
欄廻りテラコツタ。高欄上部人造石洗出。  
軒廻りモルタル塗ペンキ吹付。屋根袖藥  
瓦葺。陸屋根防水工事上タイル舗装。

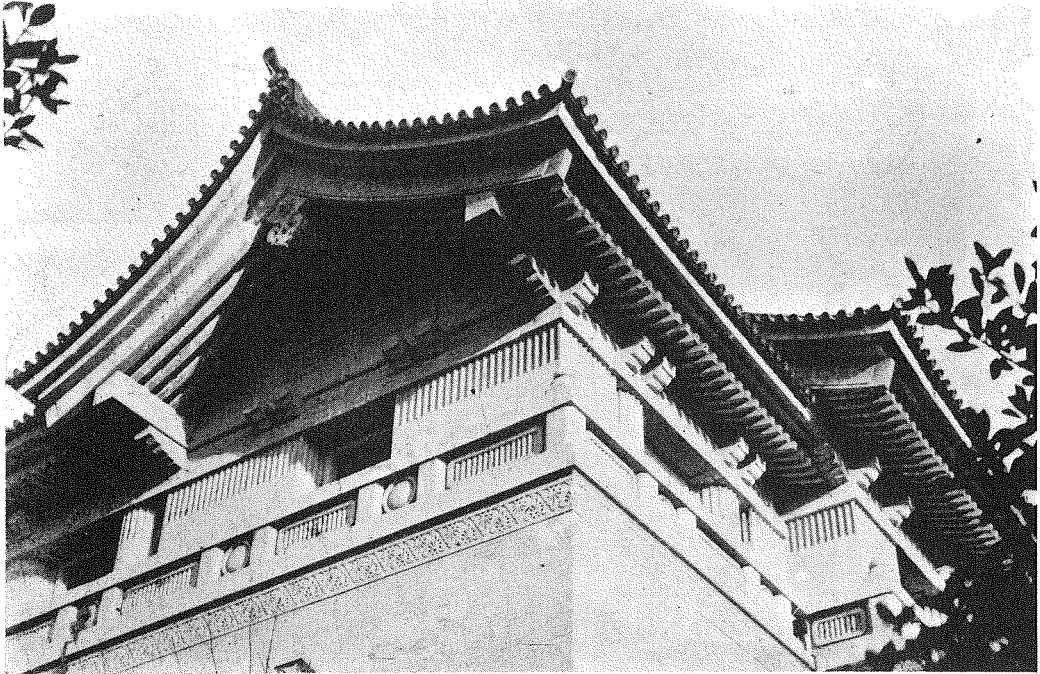
(6) 内 装

第二地階 機械室床及腰タイル。天井及  
壁テツクス張。

第1地階 廣間、團體休憩室、廊下等床  
及腰廻タイル張。天井及壁漆

喰塗（廣間に限り粗面ペンキ  
塗仕上）。豫備室、作業室等床  
フロリングブロック、巾木木  
造ペンキ塗、天井及壁漆喰仕  
上。

1 階 玄関床、巾木及壁花崗石。廣  
間床花崗石、巾木及壁大理石。  
中央陳列室床タイル、壁及ギ  
ャラリー手摺廻りトラパーチ  
ン、ギャラリー床テラゾー、  
上部壁及天井石膏彫刻付漆喰  
粗面ペンキ塗仕上。休憩室床  
タイル、腰及壁モザイツクタ  
イル、天井及壁漆喰塗粗面ペ



(5) 西南隅仰觀。

- 2 階 **ンキ**仕上。  
 貴賓室床寄木、壁裂地張及上部漆喰塗、天井石膏彫刻付漆喰**ペンキ**拭取。休憩室床寄木、天井及壁漆喰**ペンキ**塗。
- 各 階 陳列室床寄木、巾木木造**ペンキ**塗、天井及壁漆喰粗面**ペンキ**塗仕上。貯藏室床、壁、天井共全部臺檜板張。事務室及廊下床**フローリングブロック**、巾木木造**ペンキ**塗。天井及壁漆喰仕上。中央大階段床花崗石、手摺廻大理石**グリーン**嵌込。其他主要階段床**タイル**、腰**テラゾー**、天井及壁漆喰粗面**ペンキ**塗仕上。

(7) 建 具

陳列室窓二重鐵製硝子障子、其他一重。  
 外側に面する窓(中庭側事務室を除く)、

出入口地階階段及各渡廊下出入口等電動捲込み防火鐵扉を裝置。玄關、廣間及休憩室廻り出入口扉**ブロンズ**製。貴賓室及2階休憩室一部**ブロンズ**製。唐戸片面木造模様入 其他の唐戸鐵製**ペンキ**塗仕上。

【別 館】

(1) 總 面 積 3,902.64平方米

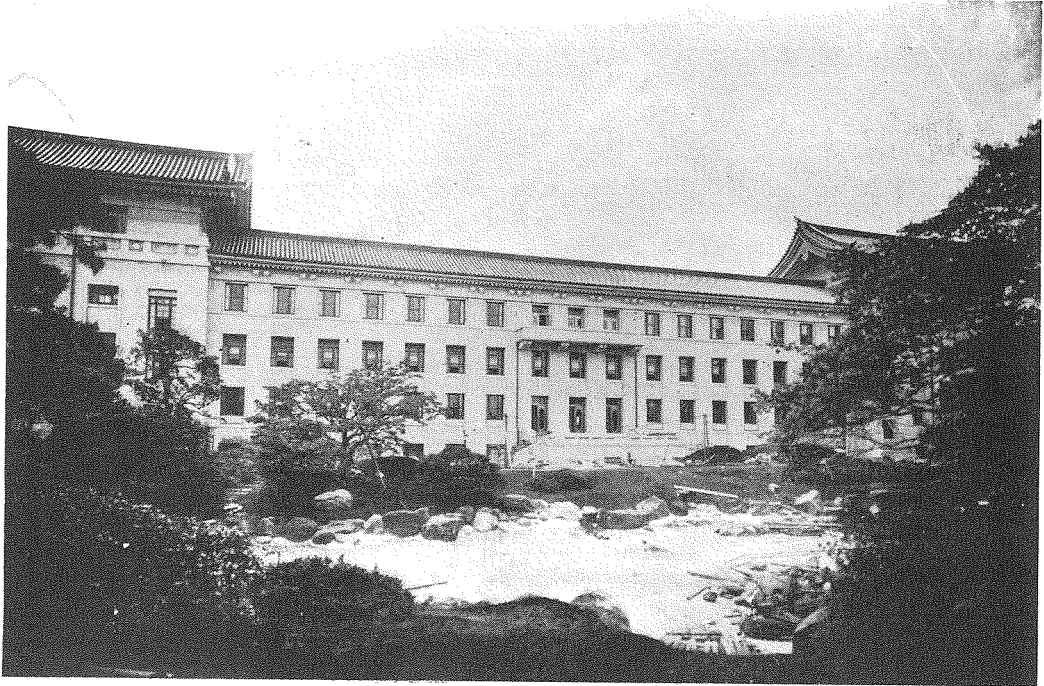
(1,180.547坪)

内 驛	
地 階	1,084.10平方米(327.940坪)
1 階	1,709.73平方米(517.193坪)
中 2 階	87.68平方米( 26.523坪)
2 階	959.28平方米(290.182坪)
屋 階	61.85平方米( 18.709坪)

外 に

渡廊下 延面積	122.99平方米(37.20坪)
空 壕	126.16平方米(38.16坪)
自轉車置場	21.00平方米( 6.35坪)

(2) 地下室付2階建にして、聽衆約450餘



(6) 背面。

を收容する講演室の外汽罐室、書庫、事務室等の諸室を配置す。構造は鉄筋コンクリート造。外部正面タイル張、背面人造洗出。屋根一部瓦葺、其他陸屋根造。講演室床フローリングブロック、壁天井テックス張。館長室床寄木、腰羽目、壁紙張、天井漆喰塗。書庫鐵骨組立構造、鐵製書架を設備。事務室其他床フローリングブロック及モルタル、壁及天井漆喰塗。汽罐室床及腰タイル張、壁及天井モルタル白セメント吹付仕上。窓及出入口建具外部は鐵製、内部は木造ペンキ塗。書庫及窓出入口並其他一部にシャッターを設備。

【其の他】

(1) 公衆食堂 延面積 256.884平方米  
(77.693坪)

外に

渡廊下 延面積 129.13平方米

(29.06坪)

地下室付平家式、表慶館に接し、地下道によつて本館及別館に通ず。鉄筋コンクリート造、外部タイル張。其他陸屋根造。

1階は食堂地下室は厨房とし、床はタイル又はモルタル塗、壁及天井漆喰塗又は白セメント吹付。

外部窓及出入口建具は鐵製、其他は木造。家具曇張を設備。

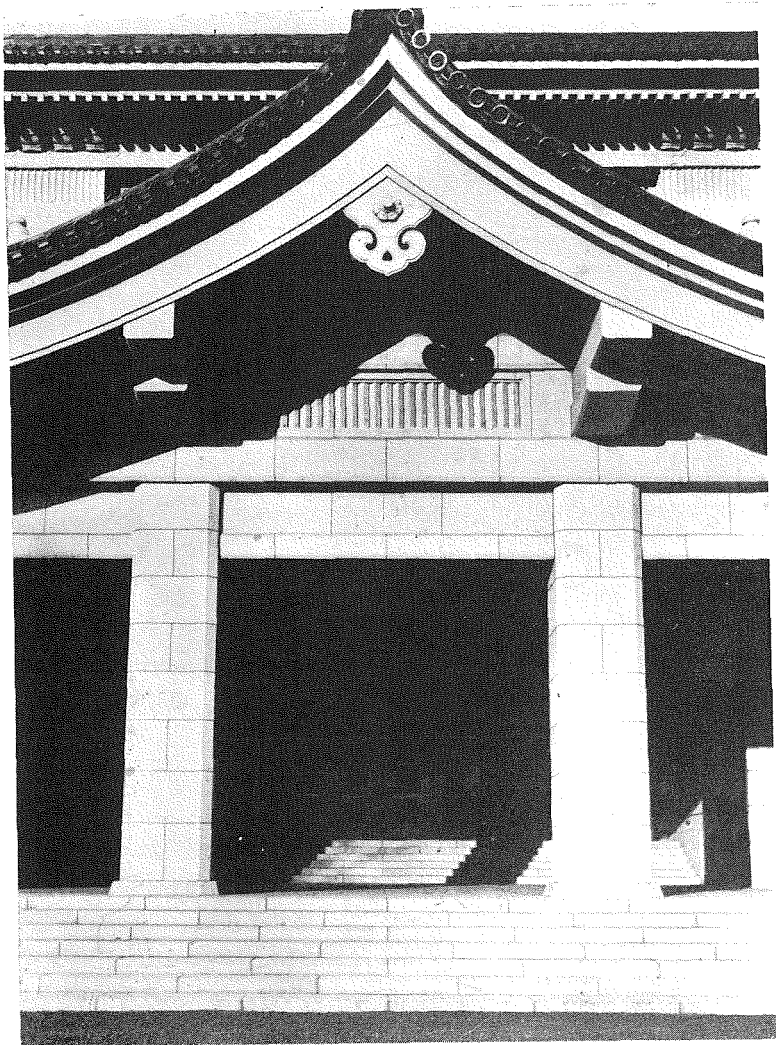
(2) 檢札所 延面積 12.15平方米

(3.675坪)

鉄筋コンクリート造平家建、陸屋根造外部花崗石張。内部床タイル張、天井及壁モルタル塗白セメント吹付仕上。

(3) 門衛所 延面積 19.7平方米(5.96坪)

鉄筋コンクリート造、外部タイル張、寄せ棟造、人造スレート葺。内部床タイル及畳敷、天井及壁漆喰塗、鐵製及木造建具設備。



(7) 正面玄関。

(4) 唧筒室 延面積 84.00平方米  
(25.41坪)

鉄筋コンクリート造、平家建、陸屋根外部モルタル塗、内部同上白セメント吹付仕上、窓入口鐵製建具設備。

(5) 殺蟲室 延面積 12.96平方米  
(3.92坪)

鉄筋コンクリート造平家建、内外モルタル仕上、窓出入口鐵製建具設備。

#### 設 備

陳列棚(入込壁)及陳列函

陳列棚(入込壁) 延長 485.8米  
陳 列 函 51個

2階陳列室は概ね高窓式採光法に依り、入込壁設備、内部密閉、アドソールに依り常に湿度を一定に保持せしめる。陳列函は上下二重函で、上部函はステンレススチール、棚板は上げ下げ自在に取付け、下部函は鐵製、何れもエナメル焼付仕上。

暖房、換氣其他空氣調和装置

本館廣間、陳列室、貴賓室及休憩室は、





(8) 正面大階段。

五系統から成る中央空調和装置を設備、冬期は室内を適度の温湿度に調節し、其の他の季節は外気を清浄し、之を室内に送入。

別館講演室は熱気暖房、換気装置設備。本館事務室、別館事務室、小講演室等は、中央式低圧蒸汽直接暖房装置設備。濕潤季節中2階陳列室入込壁内の湿度調節は、本館中央地階にアドソールを使用する空気乾燥装置を設備し、配管によつて乾燥空気を前記入込壁内に送り込む。

1年を通じて本館貯藏室内温、湿度調節の爲、本館中央地階に空調和装置を設備。

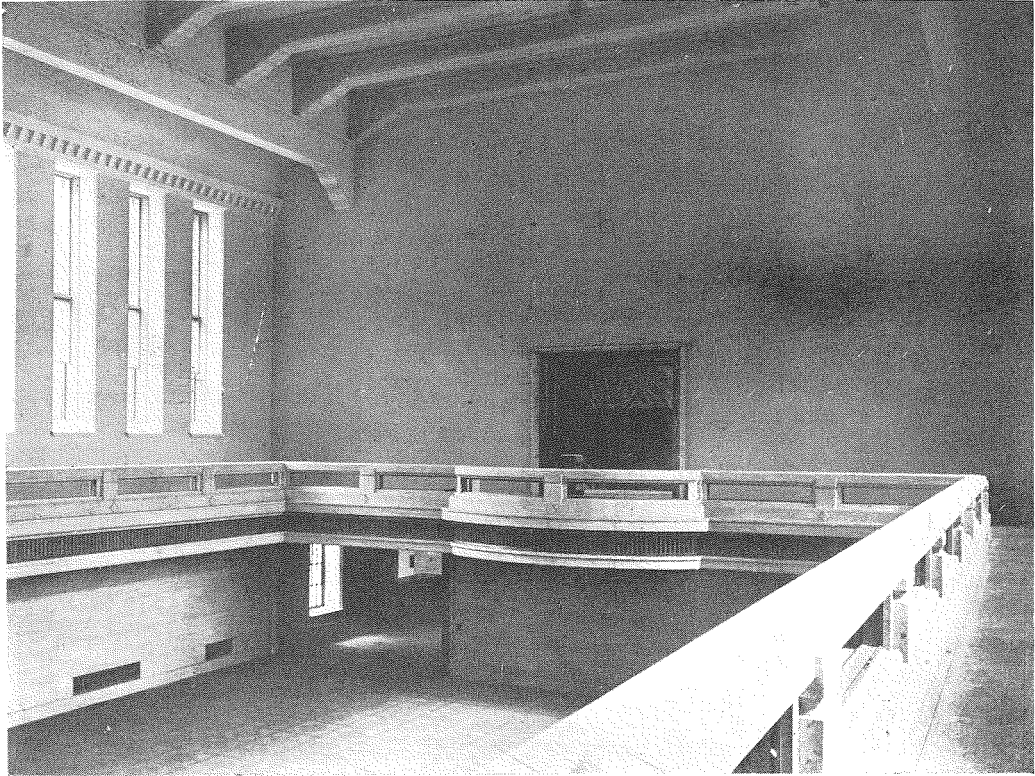
本館便所及寫真暗室は機械的排気設備。

#### 汽罐室設備

暖房其他空調和用給湯用等の爲、別館地階に自動給炭機附水管式汽罐三基を設備。

#### 昇降機設備

本館貨物運搬用昇降機六臺、別館書庫用昇降機一臺、其他別館食堂用リフト二臺



(9) 中央廣間。

設備。

唧筒室設備

鑿井用水用電動機直結堅型タービンポンプ一臺、給水用電動機直結横型タービンポンプ二臺、消火用電動機直結横型タービンポンプ一臺設備。

瓦斯設備

湯沸及作業用瓦斯設備。

強電流設備

(1) 變電並配電設備

別館地階に變電室、本館地階に配電室を設け、電力は東京電燈株式會社日暮里及根岸變電所から各3300ボルト三相高壓線の一回線供給を受け、前者は常用、後者は豫備とし、自動切替装置に依り常用線停電の場合自動的に豫備線に切替へられる。

(2) 變電室設備

電燈用變壓器 30キロボルトアムペア 3 臺  
 動力用變壓器 100 “ 3 臺  
 尙別棟唧筒室に動力用として30キロ變壓器 3 臺を設備。

(3) 電燈設備

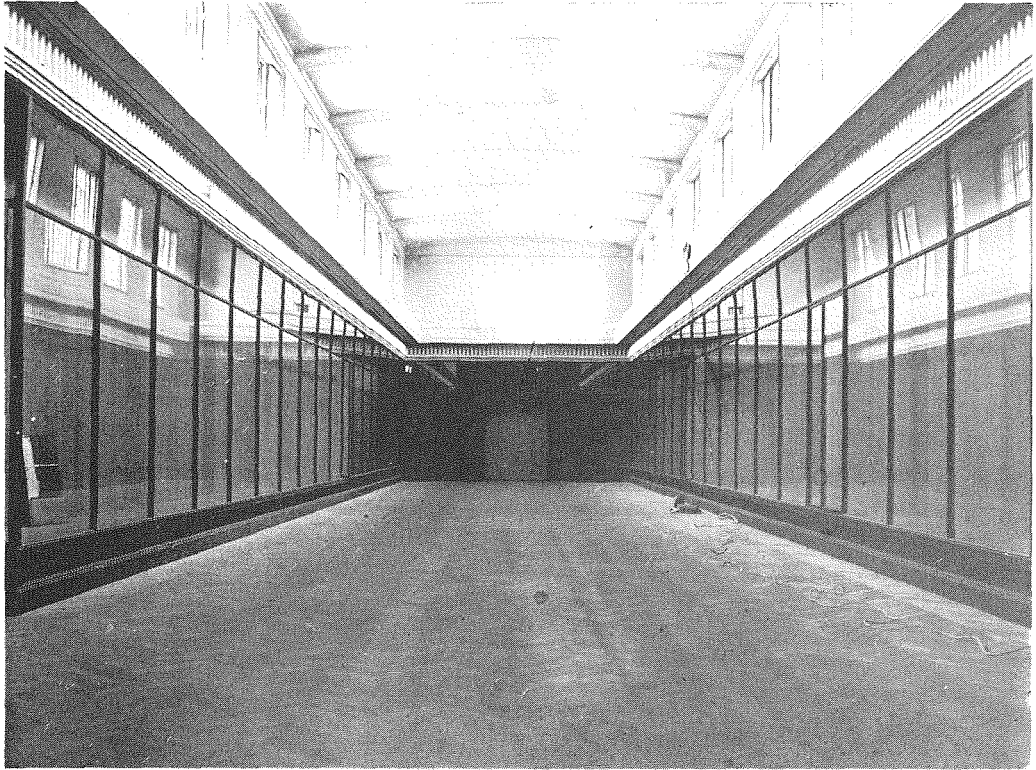
本館	{電燈	712燈
	{接続器	176ヶ所
別館	{電燈	177燈
	{燈接続	68ヶ所

(4) 陳列棚(入込壁)等内部照明

陳列棚(入込壁)の一部及陳列函は内部に管形電球を適宜設備し、觀覽者に於いて自由に點燈なし得る装置。

(5) 動力設備

唧筒用高壓電動機(100馬力)	1 臺
低壓用電動機	54臺



(10) 東側陳列室。

シャッター用電動機 314臺  
計 368臺 623馬力

(6) 避雷針設備

本館屋上及汽罐室煙突に90餘基の避雷針を設備。

弱電流設備

(1) 電話設備

別館2階に100回線用自働私設交換機を設備。

實 裝 局 線 5回線

私 設 電 話 72回線

(2) 客用公衆電話

本館地下室に客用公衆電話一回線を設備。

(3) 火災報知機

手動報知機及能美式自動報知機を設備し、受信盤を別館受付に、表示盤を本館

監守室及別館事務室に置く。火災報知用手動發信機は何れも消防署に直通。

(4) 電鈴其他信號裝置

警報裝置及各所用電鈴、閉館通報用電鈴、登退廳表示器等を設備。

(5) 電氣時計裝置

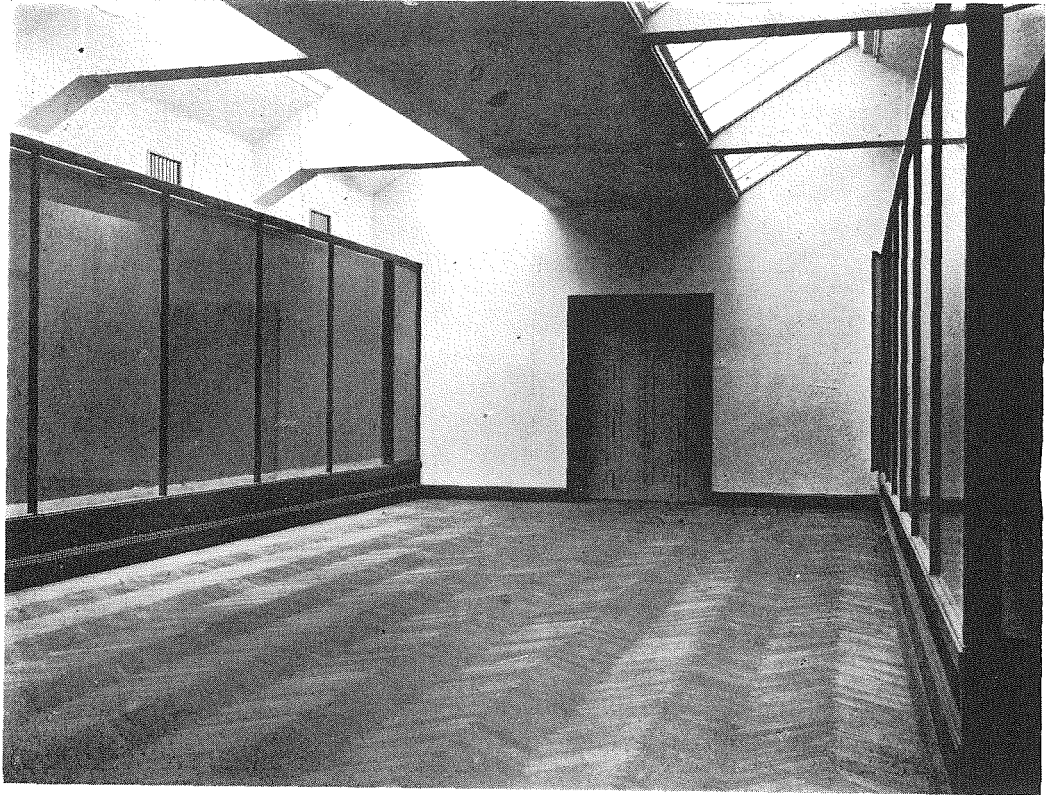
電氣時計75個を廣間、事務室其他に設置し、配電室の自動調針裝置に依り調整し得る裝置とす。

(6) 其 他

講演室演臺へ擴聲裝置を爲す。

給水及給湯設備

公衆食堂内厨房、洗面所其他は市水道を引用し、本館及別館各所の給水は總て鑿井水を使用する。其の湧水量は一晝夜約1萬石。各流し、小使室、浴室、洗面所一部には重力循環に依る中央給湯裝置を設備。



(11) 北側陳列室。

#### 衛生及排水設備

屋内各便所は水洗式とし、厨房其他の汚水と共に下記排水系に依り東京市下水道に放流。

構内外排水管は左の二系統に依つて處理する。

(1) 本館及別館に屬する排水は、東門脇から東京市公園道路を経て鐵道省線路を横斷、既設の同省所管下水渠に連絡し、東京市下水道に流入。

(2) 本館並別館前庭(表慶館廻を含む)の排水は、各御料地南側に於いて東京市下水道に連絡流入。

#### 消火設備

構内其他屋內要所に配置の消火栓總數 23ヶ所

電動力に依り消火ポンプを自動的に運轉

し、又前庭<sup>2</sup>ヶ所にサイヤミーズコンネクションを設けて、消防署唧筒を連結し得る様装置、用水は市上水道及自家鑿井水を併用。

#### 本館曇帳及ブラインド等

陳列室採光調節設備、手動捲込操作に依るカーテンを1階一重乃至二重、2階二重乃至三重。

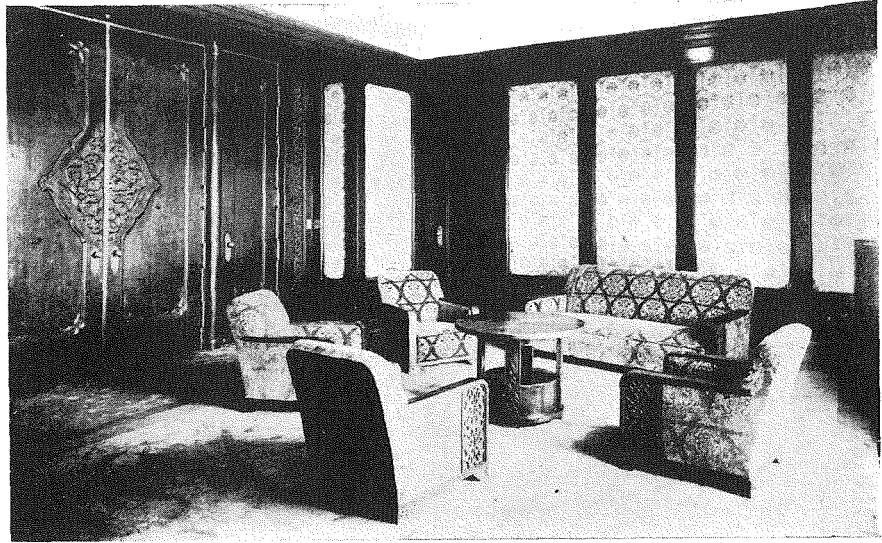
2階特別陳列室、天井裏に反射鐵板を取付け、尙屋根採光面に沿ひ手動捲込みカーテンを設備。

貴賓室及休憩室は曇帳、敷物(休憩室を除く)及家具を設備。

#### 外 構

##### 【門】

(1) 正 門 幅 15.65米 高 3.00米  
正門は檢札所を附屬し、兩側に脇門を附



(12) 貴賓室。

し、舊正門跡に建設。

門柱は鉄筋コンクリート造、花崗四半石敷、門扉鉄製ブロンズスプレー仕上。

(2) 別館門 幅 6.175米 高 2.50米  
門衛所に接し、脇門を附する。

門柱は鉄筋コンクリート造、タイル張四半石敷、鐵扉ペンキ塗仕上。

(3) 東門 幅 4.25米 高 2.50米  
門柱は鉄筋コンクリート造、タイル張四半石敷、鐵扉ペンキ塗仕上。

(4) 裏門 幅 3.10米 高 2.50米  
門柱は鉄筋コンクリート造、モルタル仕上。木扉ペンキ塗仕上。

#### 【外垣】

(1) 土壘 延長 443.0米  
南面正門兩側に沿ひ、外垣は土留石一段積、上土壘を設けツゲ生垣とす。

(2) 角柵 延長 858.0米  
東西及北側の外垣は鉄筋コンクリート造りノロ引及モルタル塗、角柵とす。

#### 庭園其他

##### 【庭園】

(1) 前庭

玄関前プール左右廣場を隔て、大體平坦な芝生とし、諸所に樹木を配植。

(2) 後庭

六窓庵茶室の區域は原形の儘保存。

此の部分は元寛永寺附屬の庭園だったので、明治維新の戦禍等に因り廢頽し、昔日の佛を留めぬ有様であつたものを今回改造を加へたもので、日本式の池泉を配し、圓池の東方には傘形四阿並博物館創立者石碑を移築した。

##### 【路面構築】

本館前庭及別館玄關に至る道路面は割栗石張り砂利道とし、正門及別館内外道路との取合は簡易舗裝。

#### 設計及工事の施行

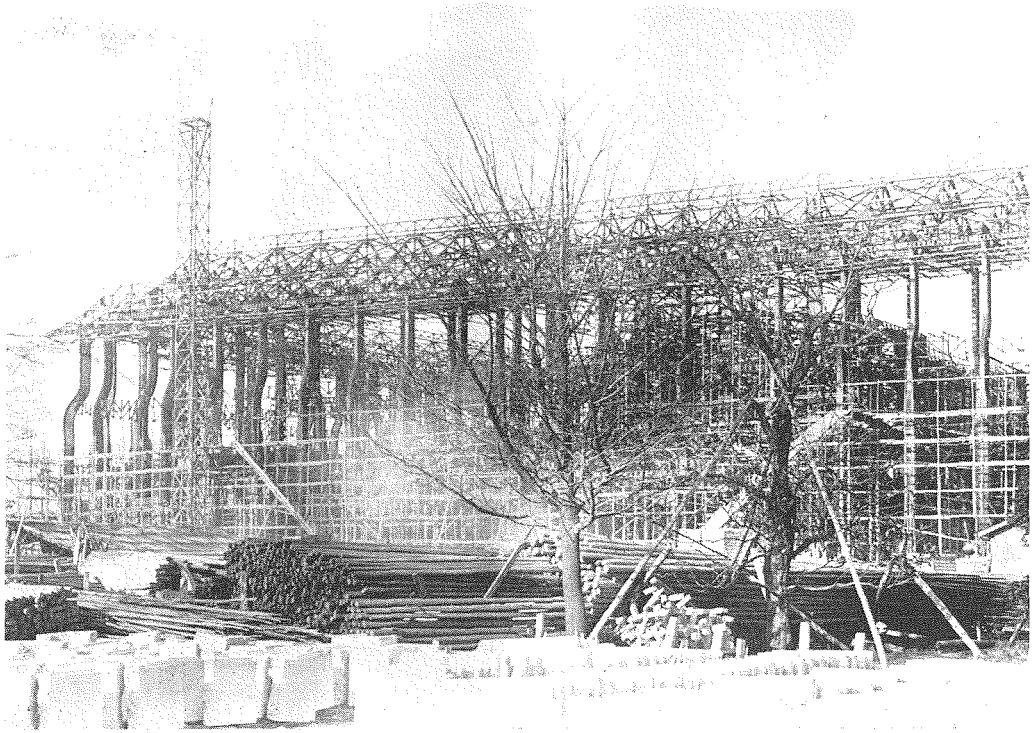
##### 【設計】

(1) 設計に關する基礎的、一般的事項の調査及實驗並に設計上の大綱に付いては、昭和4年9月、翼賛會内に特設したる東京帝室博物館建築設計調査委員會に於いて、主として之を行つた。

(2) 建築意匠設計懸賞募集の結果たる優秀案は、實施設計上之を參考に供した。

(3) 實施設計に付いては、昭和6年10月以降主として宮内省内匠寮臨時帝室博物館造營課に於いて之を施行した。

##### 【施工】



(13) 上棟式當時の博物館左翼。

(1) 本館工事は基礎工事、主體其他工事、内外仕上其他工事の三に区分し、指名札に依り請負に付した、

本館基礎工事	一式請負		
	請負者	株式會社	大林組
本館主體其他工事	同		
	同	同	同
本館内外仕上其他工事	同		
	同	同	同

(2) 別館工事

本館に於けると同様、株式會社大林組の一式請負となつた。

(3) 附帶設備工事其他

部分的に各専門業者に請負施工せしめた。其の主なものには機關及機械的裝置工事、路面築造工事、衛生及排水工事、庭園事業、日除及曇帳工事、家具及陳列棚工事等である。

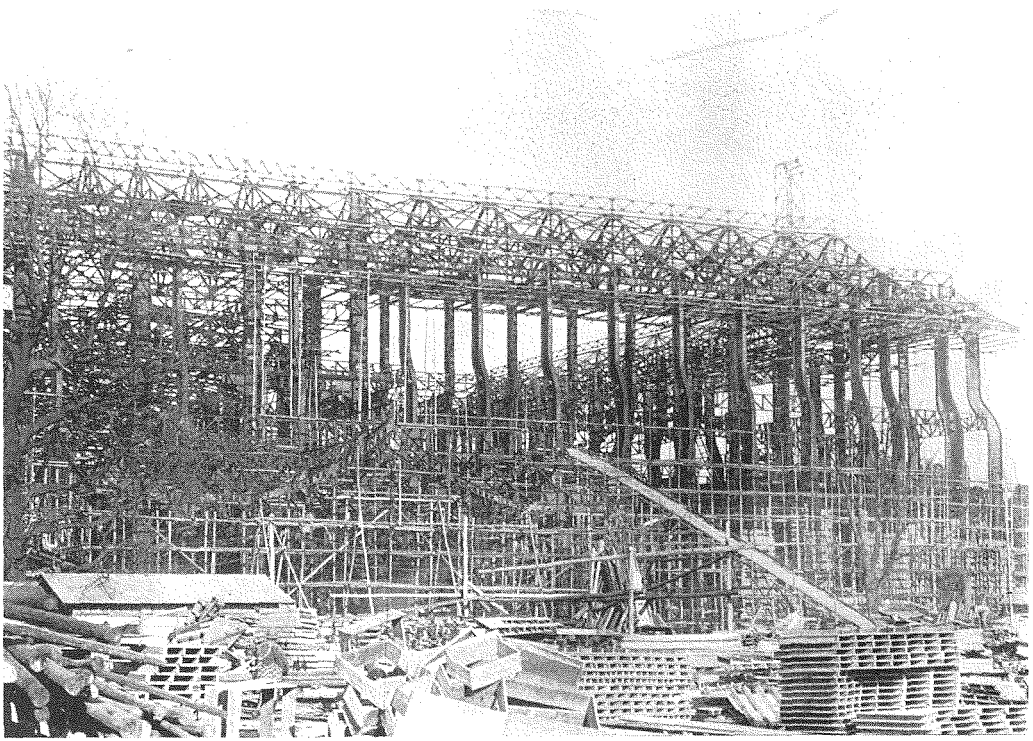
設計及工事施行上當事者が特に意を注ぎ、努力を傾けた事項としては大體次の三點を擧げる事が出来る。

(1) 陳列室に於ける採光法

此れは陳列品貯藏法の問題と共に、美術博物館建築上最重要な問題である。そこで此の點に關する全般的調査研究を行ふは勿論、特に陳列室實物大の實驗室を設けて、前後4箇年餘に互る綿密なる實驗的調査さへ實施し、頗る慎重に之に對處した。而して結局高窓式採光法を採り、更に二重又は三重の**ブラインド**を設けて光線を調節し、光線の反射に因る妨害を防いで、觀賞上の最善を圖る所があつた。

(2) 陳列品及貯藏品の安全確保

此の目的の爲に特に施設した各種設備は頗る多いが、就中外窓に二重障子、**シャッター**、鐵扉及各種の非常警報裝置を施



(14) 同。右翼鐵骨組立を終りしところ。

して、盜難及火災の絶對防止を圖つた事、並に特に周到なる各種装置を施して、貯藏室及陳列棚(入込壁)内に於ける空氣の濕度及溫度を調節し、四季を通じて乾濕其の宜しきを得、依つて陳列品等の安全を期した事の如きは、其の代表的なものであり、殊に後者に至つては、恐らくは世界の博物館を通じて初めての試みではあるまいかと思はれる。

(3) 様式上「日本趣味を基調とする東洋式」の表現に就いて

「日本趣味を基調とする東洋式」といふ建築様式は、東洋古美術博物館としての内容に調和せしめる意義に於いて決定した根本方針であるが、之れが具體的表現に就いては頗る議論の存する所であつて、其の決定までには一方ならぬ苦心があつた。而して今回出来上つたものは、

建築意匠設計懸賞募集に依つて得たる當選案を参考にし模型を作成して、之に就いて慎重審議を重ねた結果、遂に到達したる具體的結論なのである。

#### 工事行程

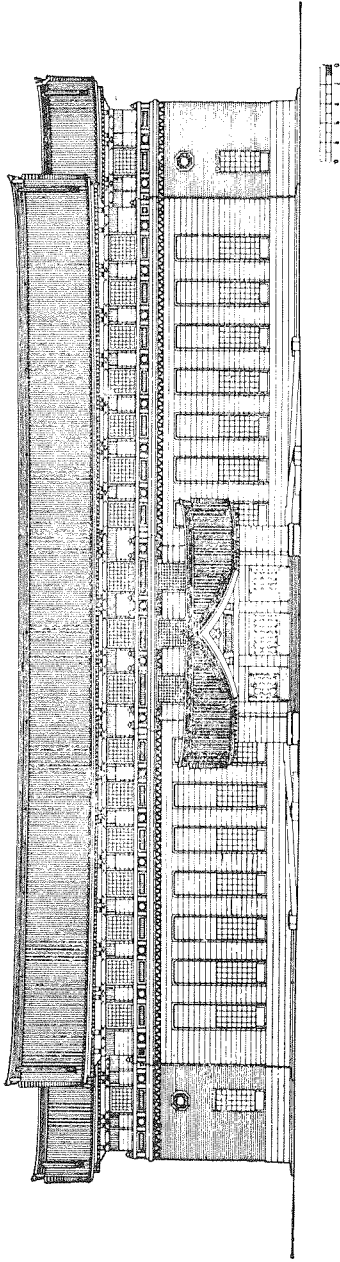
地 鎮 祭	昭和 6 年 11 月 10 日
起 工	同 7 年 12 月 22 日
上 棟 式	同 10 年 4 月 1 日
竣 功	同 12 年 11 月 6 日

#### 監 督

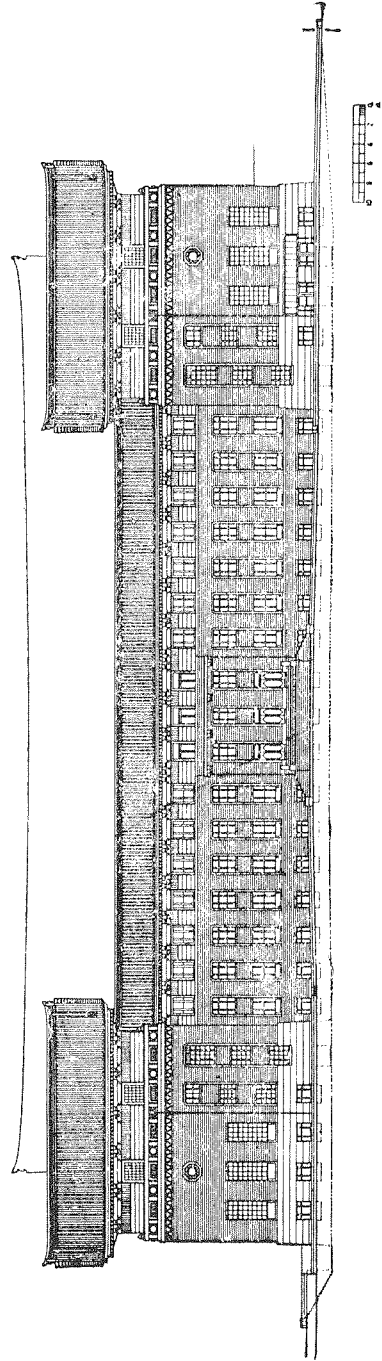
宮内省内匠寮臨時帝室博物館造營課

附記 竣工せる東京帝室博物館の建物は翼賛會から御大典奉祝記念として皇室に獻上せらるゝもので、開館は昭和13年12月頃の豫定である。

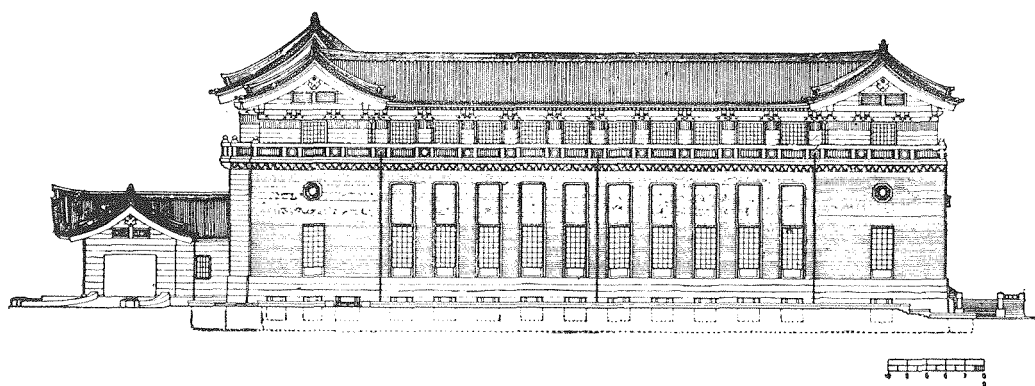
(15) 本館正面圖。



(16) 同背面圖。

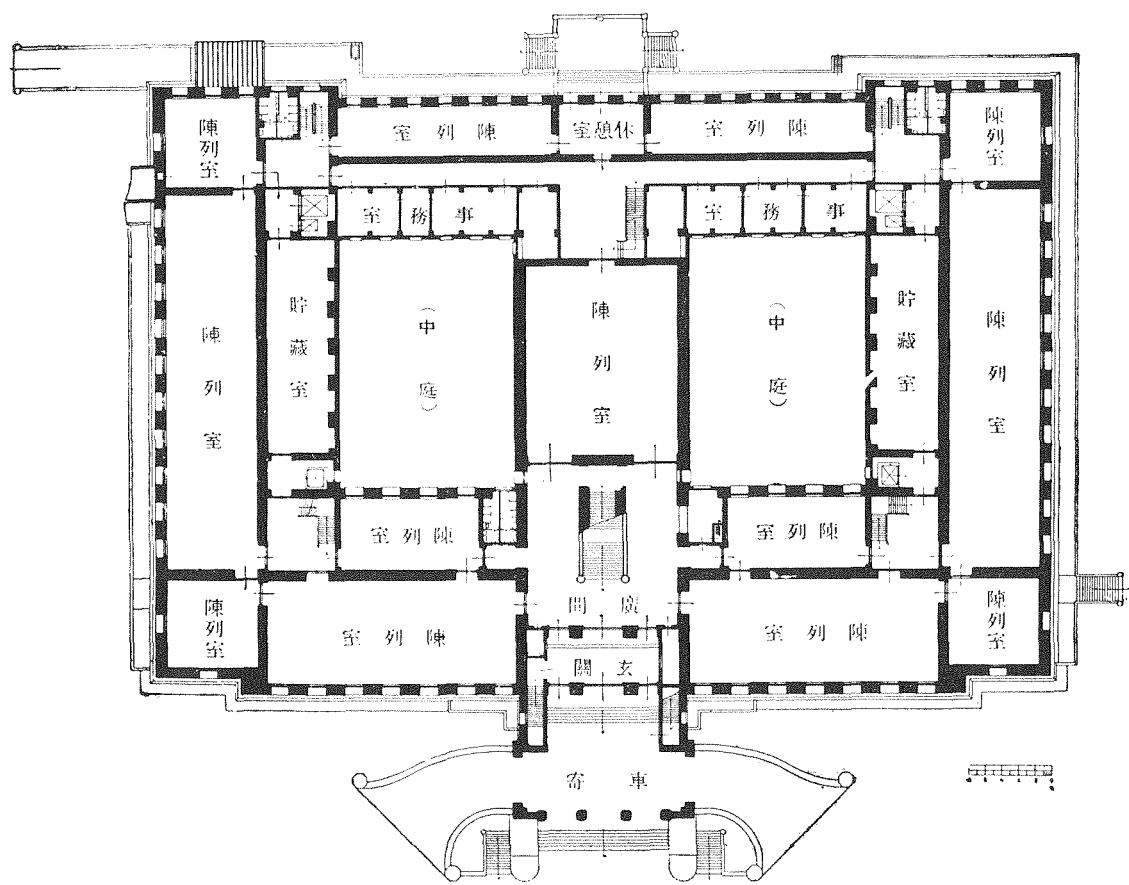


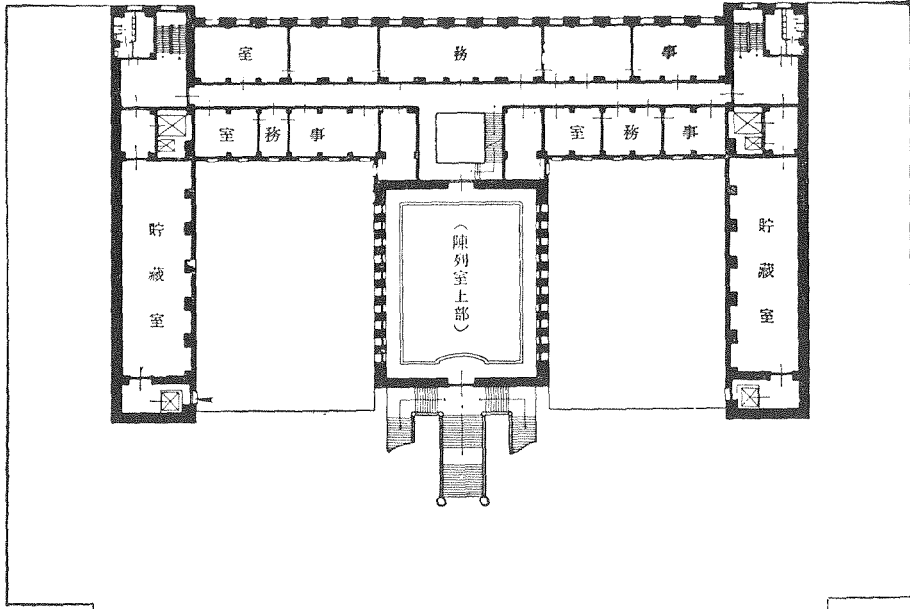




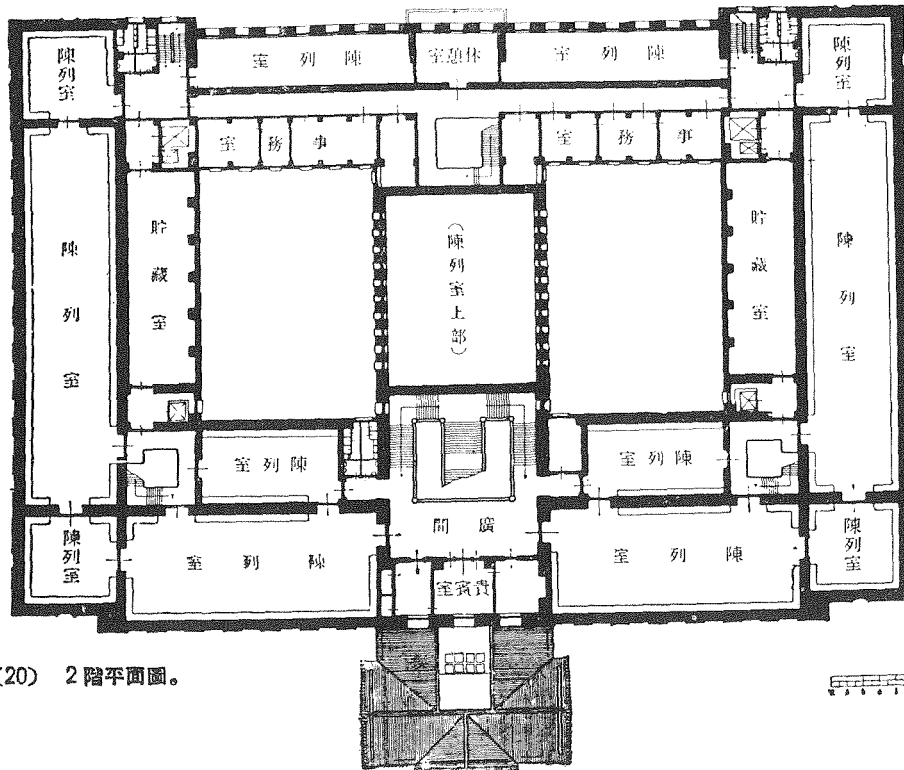
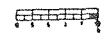
(17) 側 面 圖。

(18) 1 階 平 面 圖。

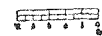


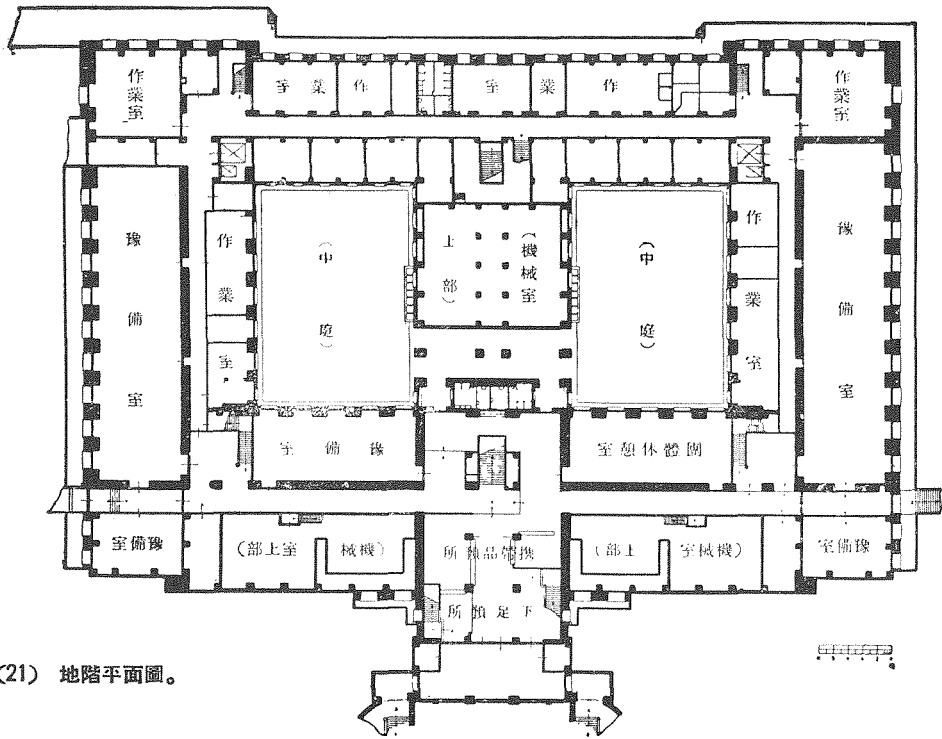


(19) 中2階平面圖。



(20) 2階平面圖。





(21) 地階平面圖。

(22) 別館の一部。

